

# 令和3年度 学校評価 総括評価表

徳島県立徳島聴覚支援学校

## 徳島聴覚支援学校の経営方針

### (1) 徳島県教育の基本方針

未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる「人財」の育成  
「徳島ならではの」教育により、大きな夢や高い目標を持って、困難にぶつかっても挑戦し続け、未知を切り拓いていく、本県の宝である「人財」の育成をめざします。

### (2) 徳島聴覚支援学校の使命

徳島聴覚支援学校は徳島視覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校として、両校が連携・協働し「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに、県内唯一の聴覚障がい教育、視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし、「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進する。

### (3) 私たちが目指す学校

私たちは、聴覚障がいについて正しく理解し、子ども一人一人の個性を大切に、日本語習得を基盤に据えた人間形成のための教育を進めます。

### (4) 本年度の具体的な目標

- ① ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導を実践する。
- ② 幼児児童生徒の可能性を見据え、発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る。
- ③ 地域（※）での聴覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発、及び本校の教育活動に関する周知活動を推進する。
- ④ 会議の在り方を工夫するとともに、可能な限り校務の省力化を図ることにより、働き方改革を推進する。

※地域の範囲は、取組内容により該当する範囲が異なります。

【幼稚部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障害の状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導を実践する。 【①】	幼児が興味・関心を抱くような話し方、教材の提示の仕方を知り、保育に活用する。	<b>活動計画</b> ① 保育の様子をビデオ撮影し、実物、カード（絵、写真）、iPadによる画像や動画等の活用の仕方や幼児の思いを引き出し思考を促す言葉かけについて検討する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度  総合評価 (評定)  ----- (所見)		
		<b>評価指標</b> ①-1 幼稚部教員全員が、1名につき1回以上、保育のビデオ撮影を行い、検討会を行う。 ①-2 週に3日以上、遊びや幼児の様子について幼稚部教員が情報交換を行い、次の計画を立てる。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【小学部】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障害の状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導を実践する。 【①】	①児童が対話を通して思考を深め、自分の考えを述べるができる授業を目指して、授業改善に取り組む。 ②関心のある課題について、主体的に学習に取り組み、深く学ぶことができる子どもを育てる。	<b>活動計画</b> ① 児童の思考を深めるための配慮や工夫についてのチェックリストを用いて自己の授業のあり方を振り返る。 ②-1 タブレット端末を活用して児童が関心のある課題を見つける自主学習に取り組む。 ②-2 学部内でビデオを用いた簡易な授業研究会を3回以上行い、児童が主体的に思考しながら学習を深めるための方策を探る。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度  総合評価 (評定)  ----- (所見)		
		<b>評価指標</b> ① 80%以上の教員が、チェックリストの2学期末の評価において、31項目中3項目以上の評価が上がる。			

		②-1 2学期末に、低学年児童の80%が、1日に3回以上自分の意見を発表することができる ②-2 2学期末に、高学年児童の70%が週に1回以上自主学習を行っている。			
--	--	---	--	--	--

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

**【中学部】**

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
幼児児童生徒の可能性を見据え、発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る。 【②】	自分の学習課題に気付き、改善に向けて主体的に取り組むことができるよう指導する。	<b>活動計画</b> ① 学習習慣を身につけ、基礎学力が定着するために、毎朝10分間の「朝学習の時間」を設定する。 ② 生徒が自分の取り組むべき課題について考えたり、見つけたりすることができるように、中学部教員が各授業を通して生徒の主体的な学びを促す授業を実施する。 <b>評価指標</b> ① 毎朝10分間の「朝学習の時間」に、学習課題に取り組める生徒が、教員アンケートの結果70%以上となる。 ② 学部全体で、生徒の課題に応じた指導や支援が実施できるよう、各学期1回以上学部会や学部研修等で情報共有を行う。	<b>活動計画の実施状況</b> <b>評価指標の達成度</b>	<b>総合評価</b> (評定) ----- (所見)	

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

**【高等部】**

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
幼児児童生徒の可能性を見据え、発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る。 【②】	希望する進路に沿った資格や検定・模擬試験等に、生徒が主体的に取り組むとともに、目標達成に向けた指導や支援を実施する。	<b>活動計画</b> ①-1 生徒に適切な資格・検定、模擬試験等の情報を随時提供する。 ①-2 検定等の受検希望者には、合格に向けた課題等を提供し、生徒自身が主体的に取り組む学習環境を整備する。	<b>活動計画の実施状況</b> <b>評価指標の達成度</b>	<b>総合評価</b> 評価指標	

	<p>①-3 検定等の学習を通して、個々の生徒が進路に向けた学習方法を習得することができるように学部全体で支援する。</p> <p>評価指標</p> <p>①-1 3年生3名は、自分の進路について主体的に考え、進路に向けた個々の目標を達成することができる。</p> <p>①-2 1・2年生8名は、自身の希望する進路に沿った資格・検定・模擬試験等に挑む生徒が、80%以上となる。</p>			
--	---	--	--	--

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

**【渉外・安全課】**

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>地域での聴覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発、及び本校の教育活動に関する周知活動を推進する。 【③】</p>	<p>防災避難施設としての役割を果たすために、災害避難時に備え、校内に備えてある物品の充実を図るとともに、三密を避けた「新しい生活習慣」の下での避難所運営を考える。</p> <p>※渉外・安全課の取組における地域は、学校所在地近隣の八万地区を対象としています。</p>	<p>活動計画</p> <p>① 視覚・聴覚両校の教職員、幼児・児童生徒及び地域（八万地区）の方にとって利用しやすい防災学習室の充実を図るために、設備の配置場所や防災用品の見直しに取り組む。</p> <p>② コロナ禍における災害避難時に備えて、三密を避けた避難所運営について検討するために、地域（八万地区）の方との視覚・聴覚両校合同の防災学習会を開催する。</p> <p>③ 地域（八万地区）の防災代表の方との連携を深めるため、視覚支援学校と合同の連絡交換会を実施する。</p> <p>評価指標</p> <p>① 誰もが使用しやすいような室内配置を行い、使いやすさについて、渉外・安全課員にアンケートを実施し、80%の肯定的評価を得る。</p> <p>② コロナ禍における災害を想定した避難所運営について、視聴合同防災学習会を年1回以上開催する。</p> <p>③ 両校渉外・安全課員と地域（八万地区）の代表の方との連絡交換会を年間2回以上実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p>	

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

## 【生徒活動課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒が障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導を実践する。 【①】  会議のあり方を工夫するとともに、可能な限り校務の省略を図ることにより、働き方改革を推進する。 【④】	①各部の行事の計画や長期休業前の生活指導・各種委員会活動実施時や内容発表時に、ICT機器を活用し、幼児児童生徒が効果的な活動や、発表内容が分かりやすく理解しやすくなるように支援する。  ②課内の役割や仕事内容や方法を見直し、課会等の時間を短縮して円滑に校務を進めることができるようにする。	<b>活動計画</b> ①-1 ICT機器を用いて各種安全教室や非行防止教室を行う。  ①-2 各学部の行事計画や生活指導・委員会活動の実施時に、ICT機器を活用することで参加者全員の理解を促す資料を作成する。  ② 毎月の課会の前日までに内容のレジメや資料を予め課員全員に回し、協議事項を各自が考えて課会に臨むようにする。	<b>活動計画の実施状況</b> <b>評価指標の達成度</b>	<b>総合評価</b> <b>評価指標</b>	
		<b>評価指標</b> ①-1 ICT機器を用いた生活指導や安全指導を年間1回以上開催する。  ①-2 各学部のICT機器の活用後に教員アンケートを実施して、活動内容の理解度についての感想や改善事項を収集し、次回の活動への指標とする。  ② 年間11回実施する課会中、5回以上は30分以内で終了できるようにする。			

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

## 【人権・キャリア教育課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
幼児児童生徒の可能性を見据え、発達段階や適性に応じた進路指導の充実を図る 【②】	①人権学習等を通して、人権を尊重し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる幼児児童生徒を育成する。  ②幼児児童生徒の発達段階や適性に応じたキャリア教育の充実を図る。	<b>活動計画</b> ① 「新型コロナウイルス感染症」に関する人権学習を各学部で実施する。 ・ 幼稚部・小学部では、学習活動や保育の中で取り上げる。 ・ 中学部・高等部では、「新型コロナウイルス感染症」をテーマにした人権講演会を実施する。  ②-1 職場見学や職場体験、就業体験での受入先について、全校の教員で情報共有を行う。	<b>活動計画の実施状況</b> <b>評価指標の達成度</b>	<b>総合評価</b> (評定)	
				(所見)	

	<p>②-2 キャリアパスポートをキャリア教育の実践に利活用する。</p> <p><b>評価指標</b></p> <p>① 各学部で、「新型コロナウイルス感染症」に関する人権学習を年1回以上実施し、事後アンケートで生徒及び教職員の8割以上から肯定的評価を得る。</p> <p>②-1 各学部会で1回以上進路情報について情報共有を行う機会を設定する。</p> <p>②-2 年1回以上「キャリアパスポート推進委員会」を実施し、キャリアパスポートの活用の状況について、全教員で共通理解を進める。</p>			
--	---	--	--	--

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

**【研究・情報課】**

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、生活指導を実践する。 【①】	分かりやすい授業を行うために、思考力を深めるための配慮や工夫についてのチェックリストを用いて授業改善を行う。	<p><b>活動計画</b></p> <p>①-1 思考力を深めるための配慮や工夫についてのチェックリストを作成する。</p> <p>①-2 チェックリストを用いて自己チェックを行い、取り組みたい項目を学習指導の中に取り入れる。(できるようになれば新たな項目を追加していく。)</p> <p>①-3 学期末ごとに自己チェックを行い、自分の授業を見直す機会とする。</p> <p><b>評価指標</b></p> <p>①-1 昨年度取り組んだ、聞こえにくさの体験から思考を深めるためにどのような支援や配慮が必要かについてのアンケートを検証し、その結果を基にチェックリストを作成する。</p> <p>①-2 各学部及び寄宿舍で自己チェックを行い、取り組みたい項目を1つ以上学習指導や生活指導に取り入れる。</p> <p>①-3 80%以上の教員・寄宿舍指導員が、2学期末の評価において、31項目中2項目以上の高い評価を得る。</p>	<p>活動計画の実施状況 評価指標の達成度</p> <p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p>		

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【サポート課】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
地域での聴覚障がい等に対する専門的支援と理解啓発、及び本校の教育活動に関する周知活動を推進する。 【③】	地域に在籍する幼児児童生徒に対して、専門的な支援を行い、本校に対する理解啓発に努める。  ※サポート課の取組における地域は、徳島県全域を対象としています。	<b>活動計画</b> ①-1 特別支援教育巡回相談員による教育相談を行う。 ①-2 教育相談のチラシを配布する。 ①-3 「夏季補聴相談」に代替する個別相談を実施する。 ①-4 難聴学級担任を対象とした研修会及び相談会を開催する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
		<b>評価指標</b> ①-1 難聴学級のある小学校及び本校通級指導教室に入級している児童の在籍校のうち、8割以上の学校に巡回相談活動を実施する。 ①-2 「市町村就学に係る事務担当者研修会」「乳幼児健診」等への支援で訪れた5か所以上の保健センター等において、本校の支援活動について説明するとともに教育相談のチラシを配布する。 ①-3 広く募集を行う「夏季補聴相談」はコロナ禍により取りやめたが、個別相談に対応できることを連絡し、希望者に支援を行う。 ①-4 専門的な研修会及び相談会を年間1回以上実施する。		(所見)	

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

【寄宿舍】

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
ICTを効果的に活用するなど、幼児児童生徒の障がいの状況や特性に配慮した分かりやすい授業、学校行事、生徒指導、	自治会活動や寄宿舍行事で、自分の思いや考えを表現し、積極的に他者と関わろうとする態度を育てる。	<b>活動計画</b> ①-1 ICTを用いた情報保障の工夫により、分かりやすさの向上を図る。 ①-2 自分の思いや考えを発表したり、話し合ったりする活動を実践する。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度	総合評価 (評定)	

生活指導を実践する。  
【①】

評価指標

- ①-1 活動前の事前学習においてICTを年6回以上使用する。
- ①-2 舍生同士が意見を发表或し、話合ったりする場面を年6回以上設定する。

(所見)

「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった